

コロナ禍の「はたらく」に関する意識調査レポート

株式会社キャリアコム

<意識調査結果からの考察>

アンケートから、コロナ禍の外出自粛によって物理的に一般的な対面を伴う転職活動がしばらく、経済が収縮して多くの企業が守りに入っている状況にある中でも、もともとキャリアチェンジを検討しており、コロナの影響によって活動を中断した人は約5%と限られている。一方で、10%の人は新たにキャリアチェンジを検討するようになった。微増ではあるが、キャリアチェンジを検討している人が増えているのではないかと考えている。

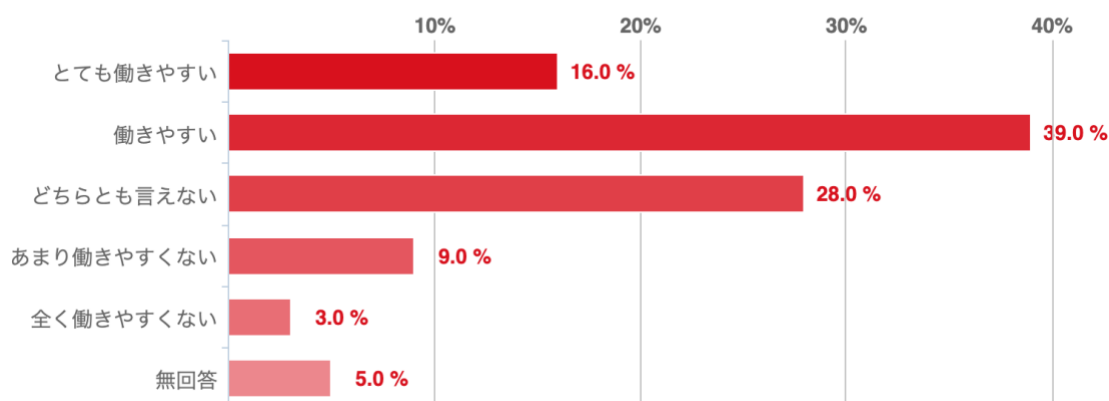
理由としては、外出自粛に伴い在宅勤務中心の働き方に変化したことで、対面や物理的な集合を伴わない新しい働き方への移行、経済活動と命を守ることのジレンマ、これらを通して見つめ直した人生観と職業観とのギャップなどが、キャリア形成を考えるきっかけになっているのではないかと考える。実際、アンケートに回答してくれた70%以上の人の価値観に変化が起っており、そのうち約半数以上が在宅勤務になったことで「どこでも仕事ができる」と考えるようになった。また、「仕事よりも、まず自分がどうやって生きるのか」「自分がやりたいことに時間を割きたい」など、そもそも自分はどう生きるべきなのかといった本質的な問いについて考えるきっかけになったことが見て取れる。さらには、所属している業界や自身の職種の将来性に対する不安から「会社の一員ではなく個人として力をつける必要性を感じた」「キャリアのポートフォリオを構築する必要性がある」などの意見もあった。

冒頭に触れた転職活動を中断している5%の人は、コロナの収束によって活動を再開するだろうが、今後、新たにキャリアチェンジを考えるようになる人が、10%から増える(価値観のギャップがある人が増える)のか、それとも、コロナの状況が収束していくことによって10%から減っていくのかについては、継続的にリサーチしていきたい。

(1) 働き方の変化について

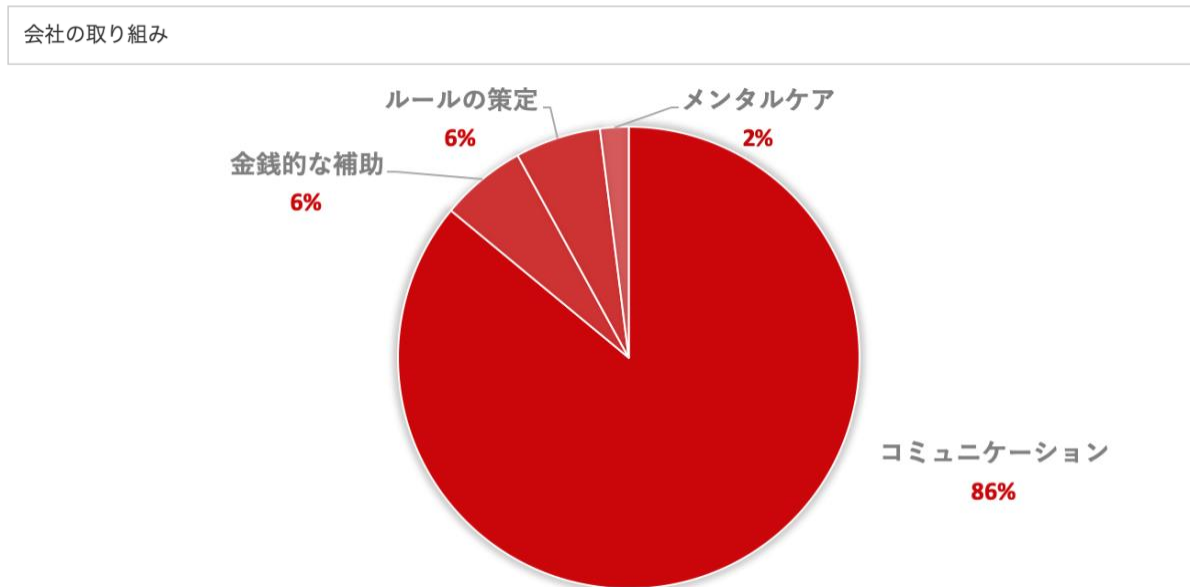
①在宅勤務を導入した感想

在宅勤務の感想



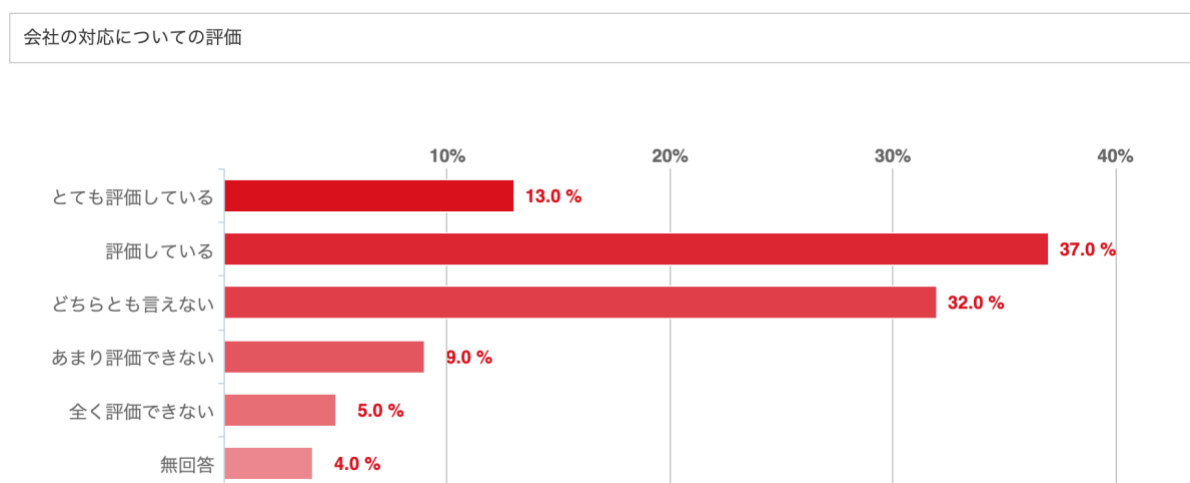
90%以上の会社が程度の差はあれど在宅勤務を導入しており、在宅勤務を行なっているほとんどの方が、通勤時間がなくなることで効率的に仕事が出来ると感じている。さらに、いつ・どこで仕事をするかについても自己管理になることを評価している意見も目立った。一方で、コミュニケーションにおいて「会って話さないとわからないことがある」「雑談ができる環境が必要」などの意見や、仕事と家庭の切れ目がなくなったのでバランスを取るのが難しいといった課題もある。また、自宅での仕事を快適に行う環境が整っていないなど、コロナをきっかけに在宅勤務を開始した方から、慣れてないが故の意見もあった。

②在宅勤務に関する会社の取り組み



80%以上の会社が在宅勤務を円滑に実施するため、ZoomなどのWEB会議システムやSlackなどのチャットツールの導入、在宅勤務のインフラを整えるための金銭的な支援、朝会や懇親会をオンラインで実施するなど、コミュニケーションを円滑に行うために何らかの仕組みを整えていることがわかった。ある企業は、役員とオンライン上でカジュアルにコミュニケーションが取れるようにしていた。また、メンタル面のサポートとして産業医との面談やメンタルケアの参考になる情報をメールで配信している企業もあった。

③会社の取り組みに対する評価

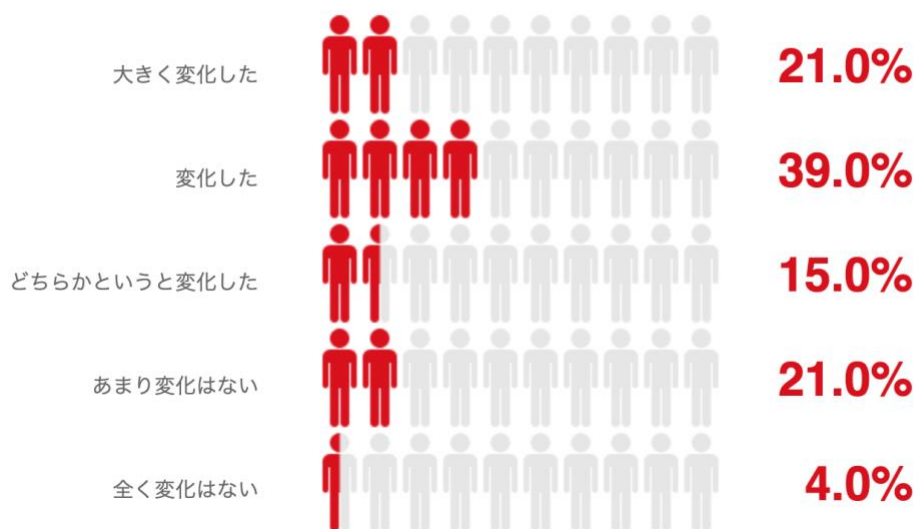


会社の対応については、ポジティブな意見が50%、ネガティブな意見が約15%、とポジティブな意見が多かった。ポジティブな意見としては、環境変化に合わせてスピーディーで柔軟な対応を評価するという意見がほとんどで、会社のコミュニケーションの取り方から、社員一人ひとりを気にかけてくれていることが伝わるという意見も複数あった。ネガティブな意見としては、ポジティブな意見の裏返しで「在宅勤務への切り替えの対応が遅い」という意見が目立った。「緊急事態宣言が解除されれば在宅勤務が廃止され元の勤務に戻ってしまう」「現場任せに感じる」「在宅勤務を推進としながら経営陣が出勤している」などの意見もあった。一方で、まだ評価するタイミングではないという意見も複数あった。

(2) 価値観の変化について

①自身の価値観の変化

働くことに対する価値観の変化

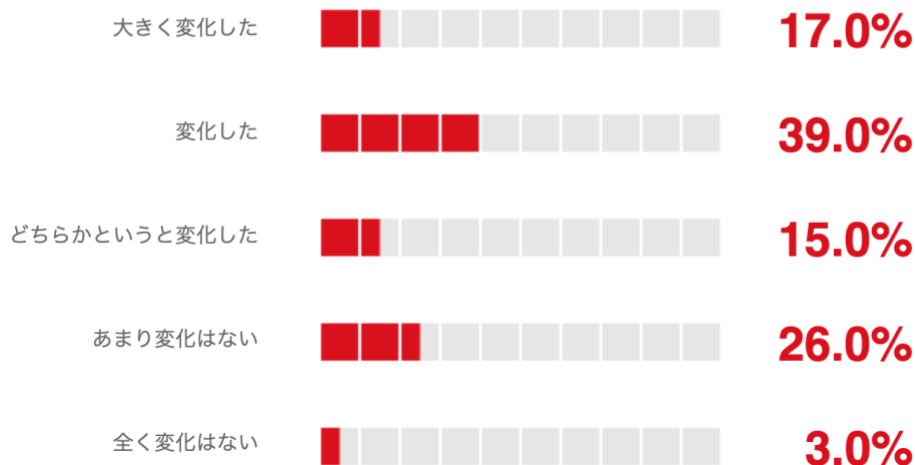


どちらかというに変化したまで含めると70%以上の方が価値観が変化したと回答。そのうち約半数以上が在宅勤務になったことで「どこでも仕事ができる」と考えるようになっている。これ以外に、自身のキャリア形成において「会社の一員ではなく個人として力をつける必要性を感じた」「キャリアのポートフォリオを構築する必要性がある」といった意見や、「自宅で仕事をすることで家族との時間が増え、改めて家族の重要性を感じワークライフバランスを見直そうと思う」など、ワークライフバランスを見直そうとしている意見も複数あった。

さらに、「仕事よりも、まず自分がどうやって生きるのか」「自分がやりたいことに時間を割きたい」など、「そもそも自分はどう生きるべきなのか」といった本質的な問いについて考えるきっかけになったことが見て取れる。

②業界や職種の将来性に関する価値観の変化

お勤めの業界や職種に対する価値観の変化

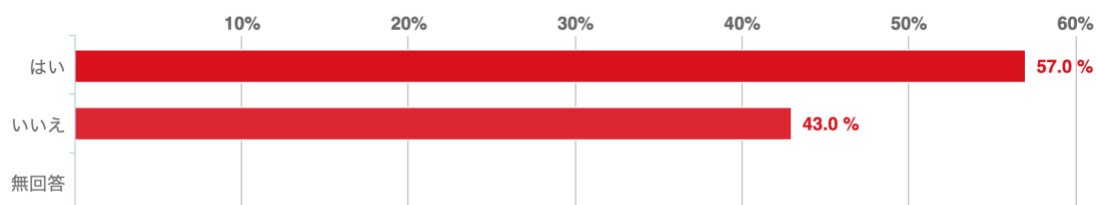


業界や職種の将来性に関しても、どちらかというに変化したまで含め約70%以上の方が価値観が変化したと回答。「リアルが前提ではなく、オンラインが前提の世界で事業を再構築する必要があるだろう」といったオンライン化の流れを強く感じている回答が多かった。職種では、特に、営業面においてこのように考えられている意見が多く、直接顧客に会えないことでやりにくさを感じている営業職の方の意見も複数あった。さらに、「業種自体が減少する可能性が高いと感じている」「今後市場で生き残れる人材の定義が変わると確信した」など、職種や業界だけではなく自らも変化や成長を続けていく必要があるという趣旨の意見が多数あった。

(3) キャリアチェンジについて

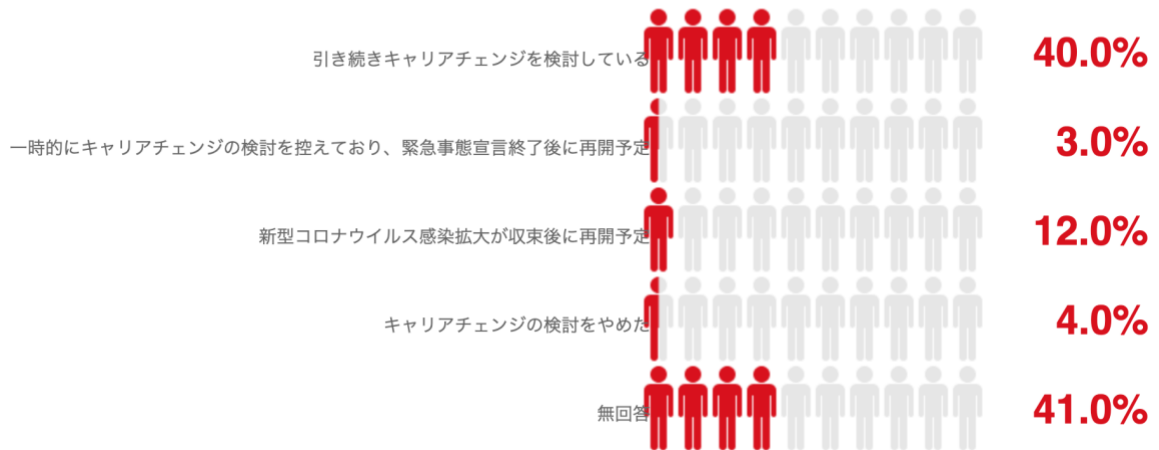
①キャリアチェンジの検討状況

コロナに関係なくキャリアチェンジを考えていた割合



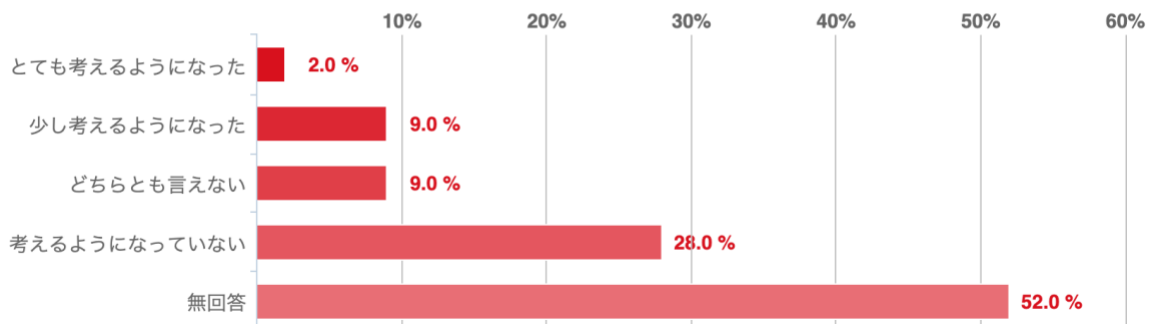
新型コロナウイルスの感染拡大に関係なく、約60%の人がもともとキャリアチェンジを検討していた。

コロナの影響によるキャリアチェンジの取り組みの変化



そのうち、今回のコロナの影響でキャリアチェンジの検討をやめた人は4%。その他の人は引き続き検討中で、コロナの影響を見ながら活動を再開するという人たちが15%。

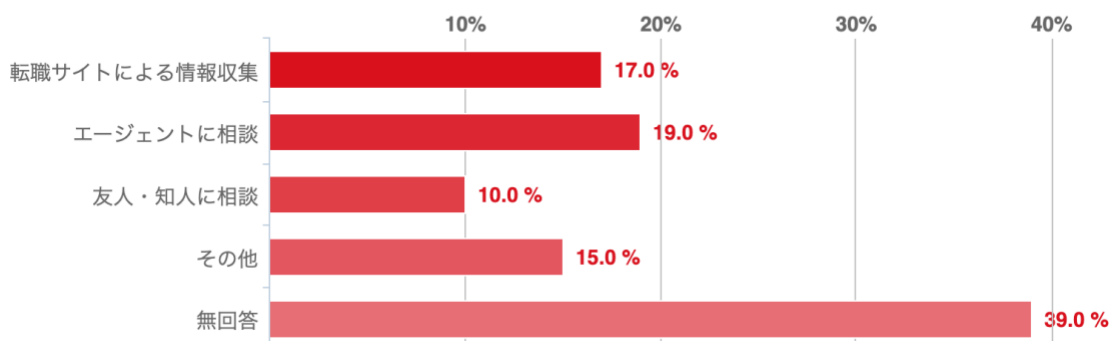
コロナの影響を受けてキャリアチェンジを検討するようになった割合



新たにキャリアチェンジを考えるようになったという方が約10%。

②キャリアチェンジを検討中の方の活動と困りごと

キャリアチェンジに向けた活動



コロナに関係なくもともとキャリアチェンジを検討していた人たちが、実際にキャリアチェンジに向けてされている活動は、エージェントに相談中が19%で最多。転職サイトによる情報収集が17%、友人・知人に相談が10%という結果。これら以外の活動として、キャリアチェンジに向けて自己分析や市場調査中の方、資格取得の勉強中といった意見もあった。また、転職以外に起業準備中の方も複数名いた。

実際にキャリアチェンジに向けて活動中の方の困りごとについては、コロナの影響で求人数が減少しているという意見が多かった。エージェントから提案される求人について「自分のspecialityと紹介したい会社の希望がミスマッチしていることを理解されていなかった」「明らかに自分とは不釣り合いな大手企業を紹介される」といったアンマッチな求人を案内されていると感じている意見も複数あった。

(4) 楽しく働くための工夫

①実際にやってみたこと

オンラインを活用したコミュニケーションが最も多く、「オンライン飲み会・ランチ会」「顧客との商談や社内のミーティングや教育」さらに、「マインドフルネスをオンラインで体験」といったビジネスシーンだけではなく、それ以外でもオンラインを活用した取り組みがなされている。一方で、オンライン飲み会は移動時間がなく気軽に実施できるため、やり過ぎに注意といったコメントも。外出自粛の中ではオンラインでのコミュニケーションがベースになり、普段はなかなか顔を合わせることができない物理的な距離のある友人とも話すことが出来て良かったという声もあった。

オンライン以外では、体の調子を整えストレスが溜まらないようにする目的で、朝の時間に散歩をしたり、ストレッチやラジオ体操を行ったり、自宅で家族との時間が増えたことで、普段はなかなか時間が取れないパートナーとの趣味の時間や子供と一緒に料理をして楽しんでいるなどの意見もあった。

上記以外の個別の意見としては、「自宅だとオンとオフの境目が曖昧になるので、時間を区切って無理やりにでも切り替えるようにしている」といった自己管理に関する意見や「コロナをどうやって解決していくかを、仮想ボスを作ってドラクエのようにクエストしていくといった考え方で仕事すると、気持ち的にも重くならず楽しくできるかなと思ってます」「この機会に新しいビジネスモデルを考える」といったポジティブに物事を捉えようとしている意見などもあった。外出自粛が続くと気が滅入ってくるので、「毎日一つは楽しいことをする」「その日の良かったことを振り返る」など工夫されている人もいた。

②「こんなことやると良いのでは」という意見

「家に仕事専用部屋を作るか、シェアオフィスの検討を進めたほうが良い」といったコロナの状況が長く続く中で、より快適に仕事をする為の意見や、「今回のアンケートの内容を元に議論や情報共有できる場の設定を希望します」といった誰もが経験したことの無い大きな変化に対して、みんなでより良い働き方を考えていきましょうという提案もあった。

「生活の中で不安が多くを占める今、カウンセリングの力が大いに生きてくる時代になると思っています。日本はカウンセリングを敬遠する傾向があるように思いますが、このような時期だからこそ、日常的に自分のメンターとなるような人間と対話することが一般化していくと思っています」「出会い系のようなものと違うものを作ることは難しいのかも知れませんが、恐怖感なくメンターとマッチングできるものがあったら使いたいと思います」といったサービスについてのご意見もいただきました。

<調査概要>

調査の方法：webアンケート方式

調査の対象：20～59歳の経営大学院の在学学生及び卒業生（管理職以上が54%、一般社員が46%）

従業員数300名以上の大企業に所属している方が約70%

有効回答数：145名

調査実施日：2020年5月7日～5月10日

調査主体：株式会社キャリコム